



5

あんないっしょ、いっしょあんないっしょ

5/ 写真 5
19 サイクリングで愛南の食と文化を広めよう

自転車で巡りながら愛南町の豊かな自然と食、お接待の文化を体感してもらおうと、愛南サイクリング愛好会(粉川洋幸会長)が「第1回ツール・ド・あいなん」を開催しました。

当日はコースが短縮されるほどの荒天でしたが、山出憩いの里温泉を起終点に、高茂岬を回る75kmコースと、高茂岬から篠山を経由する110kmコースに合計116名が挑みました。

大会には約150名のボランティアスタッフも参加し、3か所のチェックポイントで、カツオのタタキや愛南ゴールドの生搾りジュースなど愛南自慢の味を振舞って選手の疲れを癒しました。チェックポイントでは、「こんなに贅沢な大会はない」との声も聞かれ、選手の皆さんには愛南町の「お接待」を満喫してもらえたようでした。



稚魚の目が見え始めた卵

本日! 海日和!! vol.32 「元祖イクメン」

7月になると海水温も上がり、生き物たちの動きも活発になってくる。クマノミが産卵を始めるのもこのころである。

クマノミはイソギンチャクと共生することで有名だが、稚魚が生まれるまで、卵を大切に守ることで知られている。胸びれで新鮮な海水を送ったり、ごみを取り除いたり、かいがいしく世話をするが、これは主にオスの仕事だと考えられている。

メスの仕事はというと、卵をねらって巣に近づく敵を追い払うことである。もちろんダイバーも例外でない。「カッチ、カッチ」という警戒音を出しながら向かってくる。それでも立ち去らないと今度はかみつ攻撃である。手や顔など露出している部分をかまれるとなかなか痛いので、そそくさと退散することになっている。

子煩悩なオスと頼りになるメスの組み合わせ。最近の人間界でもよく耳にするようになった話である。

(写真:クマノミ 撮影場所:瀬の浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照

4



左から宮崎会長、福岡実行委員長、鼻崎教育長

6/ 写真 4
11 ゴルフを通じて地域貢献を

四国西南地域のゴルフ愛好者が集い、四万十市で「第17回一本松チャリティーゴルフ大会(福岡義人実行委員長、5/19、53名が参加)」が開催され、大会で募った寄附金を障害児の親の会「ありんこくらぶ(宮崎和友会長)」などに寄贈しました。贈呈式では、福岡実行委員長から、同くらぶに20万円、町教育委員会に図書カード10万円分、また、東日本大震災の義援金10万円の目録がそれぞれ手渡されました。

TOWN PLANT



消火体験



応急手当体験

6/ 写真1 1 自転車で安全運転

自転車の交通事故防止を図り、交通ルールを遵守した自転車の安全な乗り方を学んでもらおうと「平成25年度交通安全こども・高齢者自転車南宇和地区大会」が平城小学校体育館で開催され、こどもの部に13名、高齢者の部に4名の選手が参加しました。

大会では、学科(交通法規)と実技(技能、安全走行)の試験が行われ、選手は真剣な表情で取り組み、自転車の交通ルールを再確認していました。

6/ 写真2 8 美しい御荘湾を守ろう

御荘湾の干潟に生息するドロアワモチなどの希少生物の保護・汚染環境の浄化・環境保全を目的に、南宇和ライオンズクラブ(二宮利彦会長)が『『ごみ0の日』片の浜清掃活動』を実施しました。

毎年恒例となった片の浜清掃ですが、今年は、愛南ボランティア連絡会や御荘中学校など14団体、約130名が参加して約1時間30分、発泡スチロール製の養殖用フロートや木くず、プラスチック類など海岸漂着ごみを回収しました。

6/ 写真3 2 家族で考えよう地域の安全

地域の人たちと共に安全・安心について考えようと、愛南警察署や町消防署などの主催により「地域安全フェスティバル in あいなん」が愛南署駐車場で開催されました。会場にはパトカーや白バイ、消防車両が展示され、子ども免許証の発行、エアテント内での応急手当体験、非常食の試食などが行われました。

親子でこれらのコーナーを見学・体験したことで、防災・防犯・防火について、改めて家族ぐるみで考えるきっかけとなったようでした。